

優秀賞

ありがとうをつたえたい

岡山県岡山市立平島小学校三年 清野 耀介

七月の大雨の時、近くの川がけっかいました。ぼくは、朝、外を見たら家のまわりが茶色の水だらけでびっくりした。道も車も庭の野菜も茶色の水につかっていた。

お父さんもお母さんもおきていた。朝のとても早い時間にとなりの家の人が電話をしてきてくれたそうだ。

「外を見て。大変なことになってるよ！」
と言って教えてくれたそうだ。次の日、水が引いてからかたづけをした。近所の人たちが

「だいじょうぶだった？どこまで水がきた？車はどう？」

と声をかけあっていた。

「後になって虫が来たりしたらいけないから。自分の庭にもまいたから、つかってね。」
と、となりの家の人白いこなを持ってきてくれた。

知り合いの人も

「いるものはない？」
と言って来てくれた。

小学校もしん水して、大変だと聞いて、かたづけのお手伝いに行った。体育館もしょくいん室も放送室も一年生の教室も給食室もどろ水でよごれていた。花も野菜もかれていた。そして、うさがしんでいた。びっくりした。その日から、ぼくは毎日学校のお手伝いに行った。早くきれいになればいいな、と思ったから。ぼくの友だちも来ていた。中学生も来た。大学生が毎日来てくれた。大人の人たちも来てくれた。ほかの学校の先生たちも来てくれた。みんなで手分けをして、一生けんめいにかたづけやそうじをした。

ぼくが学校の手伝いに行ったのは、自分が通っている学校だから。お世話になっている学校だから。

でも、大学生の人たちや大人の人たちやほかの学校の先生たちは多くの学校をたすけるためにボランティアで来てくれた。

大学生の人たちは、休けいの時に一緒に遊んでくれた。すごく楽しかった。うれしかった。

川がけっかいして水害で大変なことになった時、声をかけてくれたり、助けてくれたりした、近所の人たちにお母さんもお父さんも「たすけられてる」と言っていた。

今回の出来事は、大変だった。まだまだしゅうり中だ。でも、助けてくれる人がいてよかった。一緒にしてくれるたくさんの人たちがいてくれてよかった。みんなに「ありがとう！」と思った。

